

大空翔けゆく風となれ！

令和5年度(第76回)卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

皆さんの限りない前途に大いに期待します。

→ 裏面:式辞



入学式



対面式(オンライン)



部活動紹介



授業



創立120周年



結いスクエア開所式



修学旅行



修学旅行



探究ポスター発表



課題探究発表会



海外語学研修



コーラスコンクール



一斉委員会



対面式



クラスマッチ



風越祭準備



前夜祭



芸楽祭



一般公開



後夜祭



後夜祭

令和5年度 卒業証書授与式 式辞

冬の寒さも和らぎ、風越山を仰ぎ見る柏原の地にも春の訪れを感じる季節となりました。

今日のこの佳き日に、ご来賓のみなさまをはじめ、保護者、在校生のみなさんとともに、このように盛大に卒業証書授与式を挙行できますことを誠に嬉しく思います。

保護者のみなさま、お子様のご卒業おめでとうございます。多感で成長過程にあるお子さまとの三年間、様々なご苦労があったことと思います。今日のこの日を迎えられて、感無量のことと拝察いたします。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業は、皆さん一人ひとりの努力の賜物であるとともに、温かく愛情を注ぎ、励まし、見守ってくださった保護者の方々や、部活動、生徒会活動、探究活動、ボランティア活動などでご支援いただいた地域のみなさん、そして学校の先生方や事務室のみなさんの支えのお陰でもあります。感謝の気持ちを忘れないでください。

皆さん第七十六回卒業生は、明るくのびのびと、学業や生徒会活動・部活動に打ち込み、高校生活を謳歌した学年でした。

部活動では、日々の地道な練習や活動を通して技術の向上を図り、大会や発表会では、仲間とともに喜びやくやしさを分かち合いました。

生徒会活動では、各委員会の日常の活動に加え、風越祭やクラスマッチなどの行事の運営を立派に行い、さらには、高校生活が快適で過ごしやすくなるように、夏季の服装の特例に道筋をつけてくれました。

皆さんは、高校生活の半分以上を新型コロナウイルスの影響下で過ごしました。マスクの着用、対面での授業や集会の制限、休校や大会の中止など、皆さんにはずいぶん我慢を強いてきました。そうした中で、学業や部活動に粘り強く取り組み、特に三年生での風越祭では、前例がない中、創意工夫をし、ステージ発表やクラス展、文化部の展示や発表、模擬店などの運営を立派に成し遂げました。来場された方々にも大いに楽しんでいただきました。

進路実現に向けても、粘り強く最後まであきらめない姿が見られました。これから結果を待つ人、さらに受験に向かう人たちもいます。進学や就職は、必ずしもその時の希望どおりにならなくても、自分で決断して努力した結果なら、長い人生の中で、きっと良かったと思えるものになるはずです。自分を信じて進んでください。

さて、皆さんにはこれまで、風越高校のモットーである質実勤勉・自由闊達に加えて、3つのことを伝えてきました。第一に「人との比較でなく、自分はこれを大切に生きていくと言えるものを持つこと」。第二に「身近な人から、世界の遠く離れた人たちにまで、共感する気持を大切にしてほしいということ」。第三に「自分と異なるものへの開かれた心を持ち、偶然の出会いを大切にしてほしい」ということでした。

みなさんは、これからの人生、様々な困難に直面すると思います。その時にその困難を乗り越える力となるのは、他人の評価ではなく、自分自身の信念と、人を思いやる共感力です。また、自分とは異なる考えに触れることから生まれる新たな考えです。

今日は、あと二つのことを皆さんに伝えたいと思います。

一つ目は、コロナ禍を経た今、対話の重要性がますます高まってきていることです。ギリシャの哲学者ソクラテスは、生涯一冊の著作も残さず、「本当の知恵は、人と人が心を開いて、誠実に対話するところから生まれる」と言いました。これからの時代、技術や社会の変化も目まぐるしく、価値観もますます多様化し、少子高齢化や人口減少、人権・平和問題など課題が山積しています。異なる考えを持つ人も理想や夢を共有し、真摯に対話することによって、さまざまな知恵が生まれ、時には社会を大きく変えるイノベーションにもつながります。みなさんには、進学先や就職先で、身近な人とのそうした誠実な対話を、一層大切にしてほしいと思います。

二つ目は、私が、本校の「礼法室」で、茶道部の皆さんの活動に参加した時の経験です。私が作法を知らず、緊張していると、先生がこうおっしゃいました。

「知らないことは恥ずかしいことではありません。知ったかぶりをするのが恥ずかしいことなのです。失敗も恥ずかしいことではありません。大切なのは失敗したときにどうふるまうかです。取り繕うとするとかえって恥ずかしいですよ。お礼の言葉も、つたなくてもその時の心からの感謝の言葉なら、決まり切った言葉より、よほど相手に伝わりますよ」と。

人生は経験と学びの連続です。知らないことがあっても、失敗しても、それを謙虚に認め、自ら進んで学ぼうとする姿勢をぜひ持ち続けてください。

飯田風越高校は、これまでに三万五千人を超える同窓生を輩出し、その方々は飯田下伊那を中心に、地域の経済や教育、福祉、文化・芸術を支えるとともに、広く国内外で活躍しています。皆さんも、飯田風越高校で学んだことを大切に、誇りをもって生きていってほしいと思います。これから地元を離れる人も、残る人も、ふるさとである飯田風越高校を大切に思い、それぞれの場所で同窓生に会ったら、風越高校のことを語り合える仲間であってほしいと思います。そして飯田風越高校を応援してください。

皆さんのこの三年間の高校生活の努力をたたえるとともに、皆さんの限りのない将来に大いに期待して式辞いたします。

令和6年3月1日 飯田風越高等学校長 下井一志